



進まなん

学校
だ
よ
り

新発田市立七葉中学校

新発田市上館乙84番2

電話 0254-22-3524

令和3年4月28日 第25号

新発田市立七葉中学校入学式 式辞 校長 野澤 一吉 「七葉中学校に入学する意味、それは、広いことを考える」

小学校では6年間、中学校では3年間かけて学習をします。みなさんは、既に、中学校の2倍もの時間をかけて学習しました。みなさんは、私が想像する以上の力を付けています。私は、みなさんが付けてきた力は、少なくとも二つあると考えています。

その一つは、学ぶ基本です。話を聞く、考えるなど、学ぶ姿勢ができています。私は、小学校に行く度に、みなさんの姿を見て感心していました。みんなと学び合う姿、自分の考えを堂々と述べる姿。これらは、自分に自信をもっている姿です。

二つ目は、相手を大切にしている姿勢です。その姿は、みなさんが、中学校に来て、中学生と交流した集会で見ることができました。日頃一緒にいる友だちと交流することは簡単ですが、初めて会う人とは少し抵抗感があります。しかし、みなさんは、礼儀正しく、誰とでも接していました。積極性のある姿です。

そこで、私からのお願いです。それは、自分を含めて、みんながよりよくなることを考える姿になってほしいのです。自分を中心に考えることは、もう、卒業しているはずです。これからは、広いこと、大きなことを考えるのです。つまり、自分を超えて、相手のこと、学級のこと、学年のこと、学校のこと、さらに、中学校を超えて、地域のこと、社会のことなど、自分の枠を超えたことを考えるのです。

七葉中学校は小さな学校かもしれません。全校生徒は少ないかもしれません。だからこそ、一人一人が、広いこと、大きなことを考えるのです。みんながよりよくなることを考え実践することで、私たち一人一人が、今より大きな存在になるはずです。

みなさんは、小学校では、トップのリーダーでした。6年間もかけて付けてきた力を使って、自分の枠を超えた実践をするのです。きっと、これまでとは違う自分と出会うことになります。それが、中学生です。

約800年前、加治の地を治めていた佐々木盛綱氏が、要害山に住む人から七つの宝をもらいました。その宝を大切に保管するために土に埋めました。埋めた場所に五葉松を植えたところ、この世には存在しない「七葉の松」に変わったといわれています。つまり、私たちの七葉中学校には、七つもの宝があるのです。この七つの宝と出会うためにも、よりよいみんなになること、つまり、広いこと、大きなことを考えるのです。

始業式の時に、右の図を示しながら、次のような「自分の枠を超える」という話をしました。

丸い太い枠は、自分が今生活している場所です。その枠を打ち破るのではなく、大切にしながら、その枠を超える広いこと、大きいことを考えて、新しい自分と出会うのです。

「小さい学校だから、大きな未来をつくる」ことを目指すのです。

